

重点品目野菜について病害虫の予防徹底を図りましょう！

○白ねぎ

予防の時期	対象病害虫	農薬名	散布量	使用時期・回数
7月上旬 土寄せ前	ハダニ アザミヤ	ダントツ粒剤 2回目の使用	3~6kg/10a	収穫3日前まで 4回以内
	軟腐病	カゼメート粒剤 2回目の使用	6kg/10a	収穫30日前まで 2回以内
	白絹病	モガリット粒剤 6月に予防していない圃場で使用	4~6kg/10a	収穫14日前まで 3回以内

※連作圃場では軟腐病・白絹病の予防を徹底して下さい。

※軟腐病が心配な圃場では微生物資材「ハイフミンハイブリットG」7.5kg/1aを土寄せ前に散布し土寄せを行って下さい。

土寄せは気温が下がっている朝行って下さい。

7月中旬からの最高気温が30℃を超えるような時期には土寄せはしない！（軟腐対策）

（雑草対策）

7月上旬の土寄せ後、高温時は、土をなるべくかまいたくありません。（軟腐対策）よって除草剤を使用して雑草発生を抑えて下さい。しかし、ネギの周りの草が多すぎても軟腐病や害虫の発生が多くなります。**草に負けないように小さいうちに、ネギの根を傷めないように草削りを行って下さい。**

予防の時期	除草種類	農薬名	希釈倍率/散布量/使用回数
7月上旬 土寄せ後	一年生雑草 雑草発芽前	トリアリト 乳剤	10a当たり薬剤 200~300ml/ 水 100ℓ 収穫30日前まで 2回以内

除草剤使用のポイント 土壌に湿り気がある時の散布が効果高いです。

○ナス

予防の時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍率	使用時期・回数
6月下旬~ 7月上旬	ハダニ ヨトウムシ テトリムシ 等類	コテツフロアブル	2000倍	収穫前日まで 4回以内
	褐色腐敗病	プロムズ 顆粒水和剤	1000倍	収穫前日まで 4回以内

混用
可能

※葉色が悪い時は「トミー液肥」300倍を混用して下さい。

梅雨明け後、乾燥しないように通路にかん水を行う。時間帯：夕方涼しくなってから。

日焼果防止のため黒マルチの上に敷き藁（草）等行って下さい。

○ミニトマト

予防の時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍率	使用時期・回数	
6月下旬～ 7月上旬	アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類	ハチハチ乳剤	2000 倍	収穫前日まで 2回以内	混用 可能
	すすかび病	トリフミン水和剤	3000 倍	収穫前日まで 5回以内	

※ここ数年「**すすかび病**」が多く発生しています。予防の徹底をお願いします。

※尻腐れ（カルシウム欠乏症状）予防のためカルシウム剤（カルプラス）を定期的に散布して下さい。農薬散布時に混用も可能です。

※**梅雨明けから盆明けごろまで、遮光資材利用し、比較的単価が高い9月出荷を促す。**

○ピーマン

予防の時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍率	使用時期・回数
7月上旬	うどんこ病 アザミウマ類 コナジラミ類	ハチハチ乳剤	1000 倍	収穫前日まで 2回以内

※尻腐れ（カルシウム欠乏症状）予防のためカルシウム剤（カルプラス）を定期的に散布して下さい。農薬散布時に混用も可能です。

※雨が多い時期は**ヘタの部分の傷みに注意**して出荷をお願いします。

○きゅうり

予防の時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍率	使用時期・回数
7月上旬	うどんこ病 べと病・褐斑病 アブラムシ ウリノメイガ	ハチハチ乳剤	1000 倍	収穫前日まで 2回以内

※下葉の傷んだ葉は1枚程度／1日除去して、圃場から持ち出す。

農薬散布前と後には防除日誌の確認・記入をお願いします。

高温時の農薬散布は夕方涼しくなってから行いましょう。

予防的な農薬散布は基本、出荷休みの前日（金曜日）の夕方に行いましょう。

希釈した農薬の散布量は20リットル～30リットル／aです。

